

青柏祭

青柏祭は、毎年 5 月 3 日から 5 日まで開催され、車輪がついた巨大な山車で知られている。このような山車（曳山と呼ばれる）は、日本国内の祭ではおなじみだが、この山車は、「でか山」あるいは「巨大な山」と呼ばれ、高さ 12 メートル、重さ 20 トンと、日本で一番大きい。

七尾の中心街を、魚町、府中町、鍛冶町の 3 つの地区のそれぞれのでか山が練り回る。でか山は毎年、新しく手造りされる。でか山の上には、有名な歌舞伎の場面になんだ、等身大の手作りの人形が設置される。各町の紋章が入った多色の旗が、それぞれの山車に飾られている。

有志たちは、祭の掛け声と音楽に合わせて、太い綱が取り付けられたでか山を引ながら、七尾の狭い通りを通っていく。そのスピードは走っているほどの速さに達することもあるが、観客の山車を引くことへの参加は歓迎されている。地元の子供たちは、でか山が止まっているときに、山車の底から入って中の梁を上まで昇ることができる。

でか山の経路の中でも見どころなのが、角である。方向転換が必要な角では、でか山の正面の車輪が巨大な木のてこを使って持ち上げられる。次に、垂直になった車輪がすぐにその場所に固定される。それから、有志たちの結集された力で、でか山全体を回転させるのだ。

山車が行進するときには、日本の祭によく見られるように、伝統の踊りや、食べ物の屋台、ゲームを楽しめる露店などが出る。